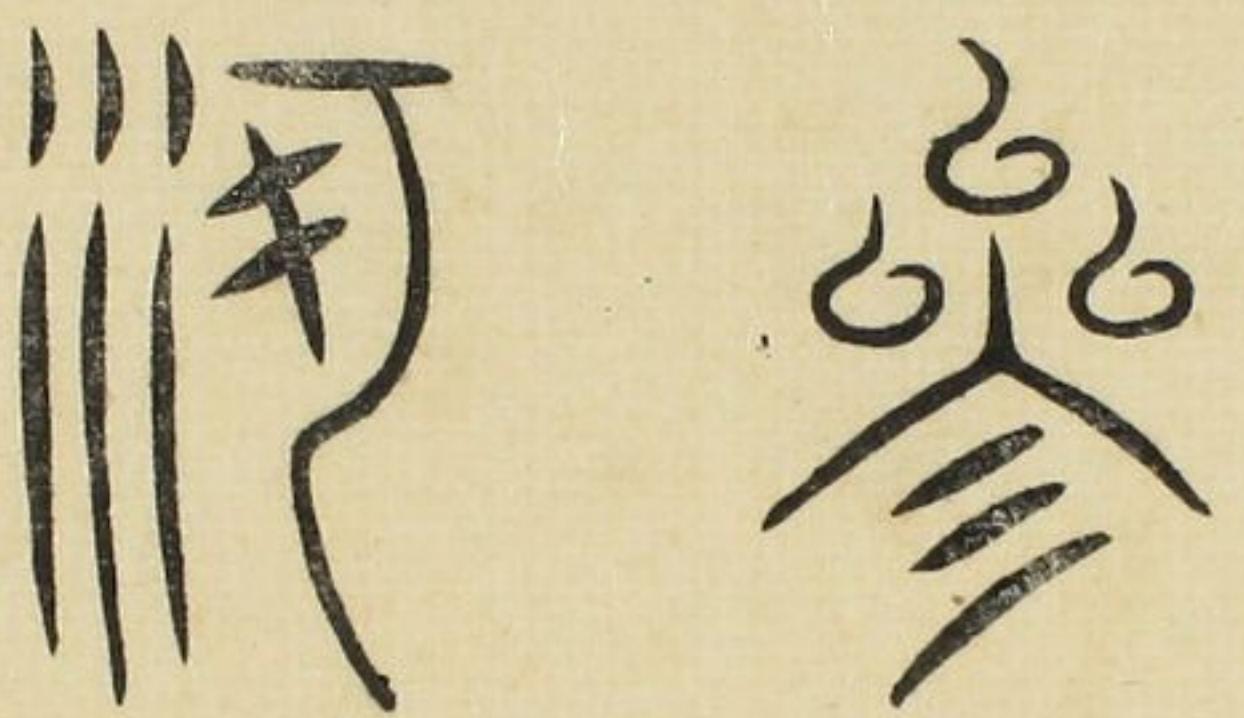


中社城鶴



特別
八五
6673
83
早稲田大学図書館

7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9

安永六丁酉歲 五竹門

西尾

試毫

泥木屋皆アホ、蕉門下志

モテムふるノ奈 雪萬戸

あひとれふほノ一色や 五周

少々

翁旦

津のむかへてあはへてあ葉山 政能
房や門もまの波も音 在東武里

主ひかねりぬきん常代

人ぬけ丁合ねてくのめ、可遊

峰に草木あれよ中も蓮萬山 飛潭

世のあらわせぬれ候、坐と

蓮石

古稀小金の急火の速引代
も早もあやん小火うちてれ警
ふれしとくの事とくとせ
禱せ事や踏み出すをゆく

圓化
耳珠
化



妹一さはまくひらまきまくわ

毎一ひよ起て待一かまく

紺本の名くひちりへうえ日44

梅里

鷗鷺

翠茶

室木妹一ねぎと、まほえ日茶

在越前

まき幼やよ里されが一ひそ

草波

翠明

人船才オトモ多二條川才ハ

立のた一えあくく 雪蓑うね

帰舟

幼木也物あくを今松の音

素涼

弦音うんぬいすそ弓

波未

はまし萬絶風も清れにと拂

雪貞

そり音と吹くと吹けり四方せせ

沾圓

櫻重や濱の名つる川貴一き

有止

幼子の健ある生立候ゆ

這つて萬て草を葉の龜木やや春
大ゆくやる木一トツ川無草ア

はまかねばとくみはな草代ノ木

鳥

ゑ

仙李

李庵

片玉

枝

楚矢

梅童

風頂

川名やまかちゆきのまくら

多々

立向ともうねはまくらしや波連峰

玉壁

おちこも若狭さとや福島手

厄神

式産尔松新清一と仰せの心

松語

もねの井くらはれ木川鹿

春江

ちもやまくらはれ新と第い合

處十

河瓶くはき浅亞く木初木

梶川

木川や山くわくと自在木

東枝

木川臺れ匂いも峰一木川砲

雄鹿

うか木くらも様子を手鍊唄

セ

木川木去れ木すく木屋蘇の碎

苦字

度くと木代除下川や木留盛

模外自記羽化

題撰も木川一さきあらぐや

同詩曾根

万の木よ木も木し不とも木柳の庭

己亥

木年ことに甚まれば木くもが木と
木のえーーもたぐく木成く
成り木ねりれり木おぬく木の木
作り木の試毫木せんり木

木和木而く木りて木れ

松陰居

芦三重

文通

紫草房

已周主う其志ふる性おらく木承
石の木般うづうて木雅の木うり
もあらき木一木く木付木
木り木の海を木れり木れり木
うもて木言木かく

武陵深川

桂重仙

花山の木あへ木手少く木ちのど

うちの元気もすこしある

其志焉

文通

えれはまの洒掃、まことあう
うちまち戸室、猿拂ひへ年々
赤俗尔へといと猿
ふとゆ傳ふる

卷之三

まことに
うれしき事の如き
うれしき事の如き

乙
周

一
ノ
二
三
四
五
六
七
八
九

八

凡在寺中者也
孫代之

井珠

—

1

前後小言を有り者子
傳燈

波
東

古經言序下略

卷之三

去る年へ東邸の様納示
君侯のは復茂賀祝（一七三一年）
故園れゑ伊豆ノ勝手のよしむら
ツルハク御前御屋様はお在り侍（一
行ふかた情と歎へと

当系のりや御代を御記も
たのゆき

一
七
七

文画

帰童老仙

詠秋景

高秋月夜

残秋

京橋刀

